

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害福祉サービス事業所カーサ岩槻 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 27日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心して楽しく過ごせる環境づくりと高い満足度	一人ひとりの特性やその日の状態に合わせた個別支援を徹底し、子どもがリラックスして活動できる居場所づくりに努めています。日々の活動プログラムも工夫し、子どもたちが「また行きたい」と思えるような関わりを意識しています。	引き続き、個別支援計画に基づいた質の高い支援を提供できるよう、定期的なアセスメントを行い支援内容を見直します。また、子どもたちの「できた!」という成功体験を増やせるよう、新しい活動内容の開拓にも努めます。
2	家族との密な情報共有と連携体制	送迎時の細やかな情報伝達や連絡帳の活用により、その日の様子や小さな変化を迅速にお伝えしています。また、定期的な面談を通じてご家庭での様子も伺い、事業所とご家族が一体となって支援できる体制を整えています。	今後も迅速かつ丁寧な対応を継続し、保護者の皆様が些細なことでも気軽に相談できるような、話しやすい関係性づくりを強化します。ご家庭での困りごとに対して、具体的な支援方法の提案なども積極的に行っていきます。
3	適切な情報管理と、相談・苦情等への迅速な対応力	個人情報の取り扱いについて職員間でルールを徹底し、保護者の皆様に安心していただけるよう努めています。また、ご意見やご相談があった際には、事業所全体で速やかに状況を共有し、誠実かつ迅速に対応することを心がけています。	日頃からの信頼関係が何より重要であると考え、引き続き透明性の高い事業所運営を行います。職員会議等でヒヤリハットやご意見を定期的に共有・分析し、事業所全体の支援スキルと対応力の底上げを図ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会や、障害のない子どもたちとの交流機会の不足	安全面での配慮や子どもたちへの心理的負担を考慮すると、外部との積極的な交流を推進することが難しい側面があります。また、保護者の皆様のニーズも多様であり、慎重な判断が必要な状況です。	無理に直接的な交流の場を設けるのではなく、まずは事業所周辺の清掃活動など、間接的な地域参加の機会から検討します。子どもたちの負担にならない範囲で、社会とのつながりを感じられるようなスモールステップの活動を企画していきます。
2	非常災害時等の訓練実施状況に関する、保護者への周知不足	事業所内では定期的に避難訓練等を実施し、安全確保に努めています。その実施内容や子どもたちの様子が保護者の皆様へ十分に伝わってきておらず、「わからない」というご意見に繋がったと考えられます。	今後は、避難訓練や防犯訓練を実施した際、お便りや連絡帳などを通じて「どのような訓練を行ったか」「子どもたちがどう参加したか」を速やかにご報告します。事業所の安全対策を可視化し、保護者の皆様にさらなる安心感を提供できるよう周知を徹底します。
3	保護者同士の交流の場や、家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の不足	保護者の皆様はお仕事やご家庭の事情で多忙な方が多く、一堂に会する機会を設けることが難しいのが現状です。また、専門的なプログラムの実施には、人員配置や時間の確保といった運営上の課題もあります。	大規模な保護者会等の開催ではなく、送迎時や面談の際に、ご希望に合わせて保護者同士が自然に情報交換できるような橋渡しを心がけます。また、お便り等を通じて、ご家庭でも取り入れやすい療育の工夫や、福祉制度に関する情報発信を充実させていきます。